

# DEBUT 首長

京都府大山崎町長 山本 圭一氏



やまもと・けいいち 1972年京都府大山崎町生まれ。私立京都学園高校卒業後、民間企業を経て2006年に同町議員に初当選。2期目の12年には最年少で議長就任。14年10月の町長選で初当選。3人の子どもを育てる。趣味は日帰り旅行。42歳。

## 都市計画税導入し基盤整備 保育園まず1カ所を民営化

**大山崎町** 京都府南部にあり、京都市や長岡京市と隣接する。広さは約6km<sup>2</sup>と府内で最も小さな町。人口は約1万5000人。天下分け目の天王山の戦いがあった地として有名。ダイハツ工業や日立マクセルの工場のほか、千利休が作ったとされる国宝の茶室を持つ寺院がある。

### ——子育て支援の充実を掲げている。

町には3つの公立保育園がある。待機児童が多いわけではないが、休日保育など多様化する保育ニーズに対応するには、保育園の運営形態の見直しが必要だ。具体的には1カ所を民営化したい。実現すれば、年約5000万円の経費削減にもつながるだろう。独自の医療費助成も考えている。学力や体力を高めるために土曜日や放課後を活用した教育も充実させる。安心して子どもを育てられる環境を整備したい。

### ——都市計画税の導入を目指す理由は。

下水道や雨水排除施設など、老朽化するインフラの整備は急務だ。近年の台風による集中豪雨で浸水被害も出ており、住民の不安は年々高まっている。防

災・減災対策は命にかかわる最優先課題だ。同税を導入すれば約2億円を確保できる。これで一般財源をまかない、若い世代にツケを回すようなことは避けたい。条例案はこれまで議会で否決された経緯もあるため、慎重に話し合いを進めたい。

町の一般会計規模は50億円程度だが、財政力は府内市町村と比べても悪くはない。町内には大手企業の工場が複数あるが、業績低迷などにより法人税は落ち込んでいる。町が小さいため、大規模工場が建つような場所もほとんどない。増収策には知恵を絞りたいが、簡単には見つからないのが現状だ。

### ——観光振興にはどう取り組むのか。

アサヒビール大山崎山荘美術館や国宝茶室を持つ寺院「妙喜庵」、ハイキングができる標高約270mの天王山など、観光資源は少なくない。これらの知名度を高めていかに情報発信していくかが課題だ。町としても「経済環境課」の中で観光を担当しており、体制強化に向けては観光に特化した職員を配置す

ることも考えている。民間業者とも連携し、経済活力を高める対策を打ち出す。観光を通じて町の魅力をアピールできれば、若者らの定住増にもつながる。2013年末、隣の長岡京市に阪急京都線の西山天王山駅が開業し、町北部へのアクセスが大幅に改善されたのも追い風だ。

### ——長期的にはどのように町づくりを進めるか。

自治体や企業、地域団体、住民らを集めた「まちづくり会議」を設置したい。町のあるべき姿についてざっくばらんに話し合い、その意見を町政に反映するような仕組みにできればと考える。当初は3カ月に1回ほど、100人規模で始めたい。小さな町だからこそ小回りがきき、一人一人が担う役割は大きいはずだ。人口減や少子高齢化が進んでも活気のある町にするには、息の長い取り組みが求められる。

(聞き手は

京都支社 角田 康祐)